

令和 2（2020）年度事業報告書

公益社団法人 日本小児保健協会

I. 法人の概況

[目的]

本公益社団法人は、小児保健の進歩・発展を図り、もって人類・社会の福祉に貢献することを目的とする。

[事業]

- (ア) 学術集会の開催〔第1号事業〕
- (イ) 機関誌及び図書などの刊行〔第2号事業〕
- (ウ) 各種の学術的調査研究〔第3号事業〕
- (エ) 各種の研修〔第4号事業〕
- (オ) 小児を取り巻く保健、医療、教育、福祉など社会一般への啓発並びに普及活動、本会の活動や小児保健全般に関わる意見聴取（パブリック・コメント）〔第5号事業〕
- (カ) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

[会員の状況]

	平成 30 年度末 (平成 31 年 3 月 31 日現在)	令和元年度末 (令和 2 年 3 月 31 日現在)	令和 2 度末 (令和 3 年 3 月 31 日現在)
個人会員	3,454 名	3,226 名	3,176 名
団体会員	147 団体	141 団体	135 団体
賛助会員	9 社	9 社	8 社

*令和 2 度末における会費滞納者（個人会員 116 名）を定款第 3 章第 12 条に基づき退会（会員資格の喪失）とした（令和 3 年 3 月 31 日付）。

令和 2 年度 個人会員入退会者数および職種別内訳 ※再入会含む。

(令和 3 年 3 月 31 日現在)

種 別	新入会員	退会会員	令和 2 年度末会員
小児科医師	56 名	97 名	1,197 名
その他の医師	4 名	4 名	47 名
歯科医師	2 名	13 名	97 名
保健師	3 名	19 名	99 名
助産師	3 名	11 名	62 名
看護師	36 名	59 名	353 名
看護教諭	8 名	4 名	41 名
栄養士	2 名	4 名	24 名
養護教諭	0 名	1 名	0 名
保育士	4 名	9 名	21 名
教職・研究職	34 名	70 名	856 名
学生・大学院生	18 名	47 名	356 名
その他の職種	17 名	0 名	23 名
合 計	187 名	338 名	3,176 名

[人事について]

1. 令和2(2020)年度名誉会長・名誉会員
理事会より総会へ推挙し、承認を得て決定した。

(1) 名誉会員
(石川県) 小泉 晶一 (こいずみ しょういち) 先生

II. 事業の概況

II-1. 事業の実施状況

ア. 日本小児保健協会学術集会の開催 [第1号事業]

第67回(令和2(2020)年度)日本小児保健協会学術集会(WEB開催)

会頭: 山下 裕史朗 (ヤマタ ユシロウ) 教授(久留米大学医学部小児科学講座 主任教授)

会期: 令和2(2020)年11月4日(水)~6日(金)

配信拠点: 久留米シティプラザ(福岡県)

テーマ: 妊娠・出産から思春期まで・切れ目のない子育て支援

参加者数: 951名(参加申込者数・最終)

イ. 機関誌及び図書などの刊行 [第2号事業]

1. 『小児保健研究』の発行

第79巻3号から第80巻2号を発行した(奇数月末、年間6回発行)

学術集会講演集を年間1回冊子により発行(9月末日発行、4,000部)

2. ホームページによる情報発信

『小児保健研究』電子ジャーナルとしてホームページに掲載した。会員は最新号までの閲覧が可能。発刊後6ヶ月を経過した巻号については、一般に向けて公開し閲覧可能としている。

3. メールマガジンによる情報発信

ウ. 学術的調査研究 [第3号事業]

1. 乳幼児身体発育調査分析報告 [発育委員会]

乳幼児身体発育調査の継続的实施に関する厚生労働省母子保健課への働きかけについて検討した。乳幼児身体発育調査結果の利活用について議論した。

2. 幼児健康度調査 [幼児健康度調査委員会担当]

幼児健康度調査は昭和55年度第1回から10年毎に継続的に行っている。令和2年度は第5回調査を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により第5回調査は実施に至らなかった。

令和3年度に改めて調査項目の見直しと確定、調査実施、厚生労働省及び協会の関係委員会との調整、調査後のデータ解析並びに報告書の作成を行う予定である。

エ. セミナー・研修会の開催 [第4号事業]

1. 令和2年度小児救急電話相談スキルアップ研修会 [小児救急の社会的サポートに関する検討委員会担当]

〈基礎コース〉令和元年度2月の研修があったため、令和2年度の計画、実施はなし。

〈実践コース〉新型コロナウイルス感染拡大の状況により、開催を中止した。予定していた内容は、基礎コースの研修で理解した電話相談の役割に基づいて、実際に受講者の電話相談の技術について自ら理解し、標準化された医療的トリアージと対応を踏まえつつ相談者をエンパワーメントする相談技術について理解し、実践への動機づけとするための講習

2. 第8回傷害予防教育セミナー（WEB開催）〔傷害予防教育委員会担当〕

わが国では、「不慮の事故」は、0歳を除いた小児の死因の第2位となっており、「事故」による傷害の予防は重要な保健活動の1つとなっている。しかしながら、現在も「気をつけましょう」「目を離さないで」といったいわゆる注意喚起が予防として実践されている現状があり、科学的根拠に基づいた教育、またその実践の評価はほとんど行われていない。本セミナーは、科学的な予防方法を普及できる人材を育成することを目的として平成25（2013）年から開始し、今年度で8回目を迎えた。令和2（2020）年度は、新型コロナウイルス感染予防の観点からWeb開催となり、事前登録では200名を超える登録があったが、実際の参加者は最大で60名程度となった。Web開催であったため、通常であれば参加が難しかった方にも参加していただくことができ、多くの方に傷害予防教育の重要性を発信することができた。また、これまで、セミナーの後半はワークショップを実施していたが、今回はすべて座学形式をとった。そのため、1人1人の講師より、より丁寧かつ詳細な情報発信がなされ、セミナー後のアンケートでも、参加者から「書籍（2019年に出版された中央法規出版「保育・教育施設における事故予防の実践」（傷害予防教育セミナーの講師らによって作成）の内容以外にも、新たに得た知識があった」というコメントもあった。また、セミナーをWeb配信することで、繰り返し講義を見たいという希望もあったため、昨年度から検討中であったe-learning教材の作成をすすめ、今後、傷害予防教育検討会の教材として提供する計画である。

日時：令和2（2020）年11月4日（金）※学術集会会期中開催

会場：Web開催

対象者：職種、会員・非会員を問わない

参加者：最大60名

参加費：無料（学術集会への参加登録済みの方）

講師：山中 龍宏（緑園こどもクリニック）、北村 光司／大野 美喜子（国立研究開発法人・産業技術総合研究所）、林 幸子（国立研究開発法人成育医療研究センター）、出口貴美子（出口小児科医院）

内容：①子どもの傷害の実態と傷害予防の考え方、②データを活用した科学的な傷害予防の実践、③傷害の情報収集の方法、④地域で取り組む科学的傷害予防

3. 第4回多職種のための投稿論文書き方セミナー（WEB開催）

これから投稿論文を執筆する医師、看護師、保健師などのコメディカルをはじめ、保育、福祉、教育、行政など多職種に向けた投稿論文の書き方のセミナーを開催した。

日時：令和2（2020）年11月5日（木）

会場：オンライン開催（第67回日本小児保健協会学術集会会期中）

参加者：ライブ配信視聴者数：91名（オンデマンド再生視聴回数：98回）

参加費：無料

4. 第5回多職種のための発達障害の研修会（WEB開催）

発達障害などを抱えた子どもたちへの発達支援などの療育や預かりなどのサービスは、現在拡大の一途をたどっているが、その質の保証は困難なのが実情である。これから子どもたちの療育、特に発達障害への療育に関わる多職種の方を対象とした研修会を企画、開催した。

日時：令和3（2021）年1月24日（日）

会場：WEB開催

後援：厚生労働省

参加者：104名

参加費：会員3,000円／非会員6,000円

5. 第5回多職種のための乳幼児健診講習会（WEB開催）

乳幼児健診には医師だけでなく多くの職種が関わるため、全体的に共通意識を持てるように研修を行うことが重要である。乳幼児健診に関わる多職種の方を対象とした研修会を企画、開催した。

日時：令和2（2020）年9月6日（日）

会場：Web 開催

参加者：90 名

参加費 会員 3,000 円、非会員 6,000 円

6. 令和 2 年度保育士等キャリアアップ研修会（食育・アレルギー対応）

保育現場におけるリーダー的職員の育成を目的として、東京都の指定を受け東京都保育士等キャリアアップ研修会・専門分野研修 食育・アレルギー対応を企画したが、新型コロナウイルス感染症拡大の状況により開催を中止した。

7. 第 1 回小児保健講習会（新型コロナウイルス感染症予防対策のため開催中止）

小児保健は、小児科医にとって必須の知識であるが、学ぶ機会が少ないのが現状である。小児科専門医を目指す小児科医、および保健師、看護職等を対象に、小児保健分野の見識を得ることを目的に企画。

オ. 小児を取り巻く保健、医療、教育、福祉など社会一般への啓発並びに普及活動 [第 5 号事業]

1. 第 36 回小児保健セミナー（WEB 開催）

日時：令和 2（2020）年 11 月 15 日（日）

会場：Web 開催

テーマ：学齢期の子どもの新たな健康課題

内容/講師：増えるアレルギー症状の子どもたちー花粉症、喘息から食物アレルギーまで上手な対応法/国立成育医療研究センター アレルギーセンター センター長 大矢幸弘、ネット依存、心身症、不登校ー子どもの心の不調に家庭・学校・かかりつけ医はどのように向き合うべきか/久留米大学医学部 小児科学講座 准教授 永光信一郎、危ない「近視」ー将来の失明を防ぐためにできること/慶應義塾大学医学部 眼科学教室 専任講師 鳥居秀成、いつも口が開いている・うまく噛めないーむし歯だけではない子どもの口の問題/昭和大学歯学部小児成育歯科学講座 客員教授 井上美津子、スマホ社会と子どもの運動器障害ーよくある怪我からロコモティブシンドロームまで 山梨大学医学部整形外科学講座 学部内講師 若生政憲

参加者：80 名

参加費：会員 3,000 円、非会員 6,000 円

※講演の内容は、機関誌『小児保健研究』第 80 巻 2 号に掲載した。

2. 委員会事業 ※令和 2 年度の委員会開催については、新型コロナウイルス感染症拡大の状況により Web 会議推奨で実施した。

（1）発育委員会

委員会の所掌を厚生労働省乳幼児身体発育調査の円滑な実施と調査結果の学術的活用に関する議論と活動を行うこととしている。令和 2 年加藤則子委員長が 2 期務められたため、次期委員長として磯島豪先生を互選で選出し、理事会で承認を受けた。令和 3 年 1 月 8 日に Zoom による委員会を開催し、酒井規夫担当理事、柳川敏彦副担当理事、磯島豪委員、加藤則子委員、高石昌弘アドバイザーの出席があり、磯島豪先生の司会で進行した。令和 2（2020）年実施予定の乳幼児身体発育調査が遅れているが、たとえ遅れても実施すべきであることを確認し、本委員会として要望書を厚生労働省に提出することを確認した。また、今後の委員会の取り組みとして若手の委員をリクルートし乳幼児発育調査と協力して学術的な発信と臨床につながる研究を推進することが議論された。委員長から副委員長について柳川副担当理事を指名して了解された。

（2）幼児健康度調査委員会

・幼児健康度調査は昭和 55 年度第 1 回から 10 年毎に継続的に行っている。平成 22 年度第 4 回調査結果を統計的に検討し、委員において解説文の作成が行われ、それらを基に令和 2 年 11 月に書籍「子どもの保健 1980 年から 10 年ごとの幼児健康度調査の結果と分析 小児保健に携わるすべての人に」を出版した。

・令和2年9月10日(木)13時～15時、Web会議にて委員会を開催し、第5回幼児健康度調査の実施見通しと、内容の再検討について議論がなされた。

・協会ホームページに掲載している、平成22年度の「幼児健康度に関する継続的比較研究報告書」に記載している平成2年度調査データに誤りがあり、令和2年10月27日付で朱書き修正版を掲載した。

(3) 予防接種・感染症委員会

・予防接種・感染症情報の発信

感染症・予防接種レターを74巻4号より再開し、令和2年度は79巻3号(第81号)から80巻2号(第85号)までを収載。

小児保健研究巻号	発行日	発行NO.	タイトル	執筆者
79-3	令和2(2020) /5/31		掲載なし	
79-4	2020/7/31	(第81号)	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)	三沢あき子
79-5	2020/9/30	(第82号)	予防接種の接種間隔に関する制度が 変更されます	多屋 馨子
79-6	2020/11/30	(第83号)	新型コロナウイルス感染症対策をと おして明らかとなった未就学児施設 のインフラとしての役割～子どもの 成長発達を保障しながら感染症対策 を続けるために必要な環境とは～	並木由美江
80-1	令和3(2021) /1/31	(第84号)	ワクチンの筋肉内接種	岡田 賢司
80-2	2021/3/31	(第85号)	小児におけるインフルエンザワクチ ンの有効性	久保田恵巳

・保育所でよく質問される内容について、「保育所における予防接種と感染症に関するあるあるQ&A 35」を作成した。

・日本小児科学会 予防接種推進専門協議会へ本委員会 岡田 賢司委員、多屋 馨子委員が出席した。予防接種推進専門協議会での議事や依頼事項に関する検討や対応を行った。

・予防接種推進専門協議会において「がん教育推進のための教材」へのワクチンによるがん予防の記載に向けた関連学術 20 団体の要望書を文部科学省宛に提出するにあたり、当協会からの賛同について理事会へ提出し、承認を得たことを踏まえて対応した。

1) (みんなで知ろう HPV プロジェクト(通称みんパピ!)からの HPV 啓発活動への協力

当該団体刊行のフライヤーに「日本小児保健協会はこの活動を応援しています」とする文言を入れることは理事会の承認をいただいた。

2) 「全国こども食堂支援センター・むすびえ」への支援

理事会にてメール審議を行ったが、全員一致の承認には至らなかった。

3) 予防接種推進専門協議会から下記3文書の当協議会ホームページ掲載に関する構成各団体の了解確認は、3/3付で全理事・全監事の同意をいただいた。

①日本脳炎ワクチン供給不足が見込まれる現状での医療施設における対応ー予防接種推進専門協議会からのお願いー

②新型コロナウイルス感染症流行時における、既存ワクチンの接種率向上等による感染症予防の重要性に関する声明

③新型コロナウイルスワクチン接種に関する提言

(4) 編集委員会

- 1) 「小児保健研究」電子ジャーナル(6回/年)を発行した(第79巻第3号(令和2(2020)年5月1日発行号)～第80巻第2号(令和3(2021)年3月31日発行号))。
- 2) 「第67回日本小児保健協会学術集会講演集」(印刷媒体)を発行した(小児保健研究第79巻講演集(令和2(2020)年9月30日発行))。
- 3) 「第4回多職種のための投稿論文書き方セミナー」を開催した(令和2(2020)年11月5日 第67回日本小児保健協会学術集会会期中)。
- 4) 「日本小児保健協会のご案内」について日本小児科学会雑誌へ掲載を依頼した。
委員会開催：令和2(2020)年4月8日(水)、6月10日(水)、8月5日(水)、10月7日(水)、12月2日(水)、令和3(2021)年2月3日(水)。なお、各回ともメール審議を行った。

(5) 栄養委員会

子どもや家族へ適切な食と栄養に関する知識を啓発することにより、子どもの健やかな成長発達や健康増進へ寄与することを目的とした活動を行った。

1) 「With コロナ時代の子どもの栄養」の提言

新型コロナウイルス感染症の蔓延は国民生活に大きな影響を及ぼし、子どもたちの健やかな成長・発達に対する悪影響が懸念されることから、小児科医、管理栄養士、看護師、心理学の各専門家を中心に、子どもたちの健やかな成長・発達を促すことを目指した一般の方に向けた子どもの栄養に関する10の提言及び解説文を提案作成し、令和3年3月理事会承認後に当協会ホームページへ掲載公表した。

2) 「こどもの食育を考えるフォーラム」(年1回開催)への後援・支援

日本小児医療保健協議会合同委員会栄養委員会の標記フォーラムの活動へ、後援・支援を実施した。

3) 委員会開催

以上の活動のために、令和2(2020)年11月26日、令和3(2021)年1月21日、3月4日に委員会を開催した。

(6) 学校保健委員会

委員会の開催：令和2(2020)年9月8日(火) Web会議を開催した。委員長に菊池透、副委員長に山本幸代、書記：太田百合子を選出した。令和2年～3年の事業計画として、日本小児保健協会代議員を対象にCOVID-19パンデミックによる長期間の学校臨時休校が児童生徒の心身の健康に及ぼした影響に関する調査を実施すること承認した。

(7) 小児救急の社会的サポートに関する検討委員会

令和2(2020)年4月25日(土)、8月29日(土)、11月23日(祝)、令和3(2021)年2月13日(土) Web会議を開催した。次年度の「小児急電話相談スキルアップ研修会」の開催計画等の検討を行った。

(8) 傷害予防教育検討会

令和2(2020)年度第1回委員会を令和2年10月16日(金)にオンラインで開催し、新体制の紹介、委員長の選任、および「傷害予防教育セミナー(11月4日Web開催)」の内容確認等を行った。また第2回の委員会を令和2(2020)年11月4日(水)、学術集会会期中にオンラインで開催し、次年度のセミナー企画やE-ラーニング教材作成について議論した。

(9) 小児保健奨励賞研究助成選考委員会

令和2(2020)年度研究助成の選考を行った。スケジュール上の都合により、メールにて選考を行った。

(10) 小児保健奨励賞 小児保健・愛育会賞選考委員会

令和2(2020)年度の小児保健・愛育会賞助成奨励の選考を行った。スケジュール上の都合により、メールにて選考を行った。

(11) 健やか親子21対応委員会

委員会の活動方針として、下記を決定した。

- ・「健やか親子21」に関する小児保健協会の意見を取りまとめて国に向けた提言する。
- ・「健やか親子21(第2次)」の最終評価に向けて小児保健協会の位置づけや指標に対する意見等を提起する。本年度の活動として、コロナ禍を踏まえた近日中に提案が望ましいと考える意見をメール審議で検討し、次年度に「健やか親子21(第2次)」にかかわる子ども健康相談・子育て支援などの相談において、コロナ禍や新しい生活様式の中で普及したICT技術を用いたりリモートによる実施・実践の現状、その需要などについて把握するための調査について検討した。

(12) 教育委員会

「第36回小児保健セミナー」(令和2(2020)年11月15日)(WEB開催)、「第5回多職種のための乳幼児健診講習会」(令和2(2020)年9月6日)(WEB開催)、「第5回多職種ための発達障害の研修会」(令和3(2021)年1月24日)(WEB開催)を主催した。また次年度開催の「第37回小児保健セミナー」、「第6回多職種のための乳幼児健診講習会」、「第6回多職種のための発達障害の研修会」、「保育士等キャリアアップ研修会」について、プログラムの内容を検討、決定した。

委員会開催：令和2(2020)年6月12日(金)、7月13日(月)、9月18日(金)、10月29日(木)～11月1日(月)(メール会議)、11月20日(金)、12月30日(月)～令和3(2021)年1月6日(水)(メール会議)、令和3(2021)年2月8日(月)

(13) ホームページ・広報委員会

協会ホームページの更新および協会メールマガジンの配信を行った。令和元(2019)年度に全面リニューアルを実施した協会ホームページは都度更新し、各種情報や機関誌の電子ジャーナルを掲載した。メールマガジンは、学術集会、セミナー、講習会等の情報、小児保健研究の発行状況、最新の小児保健関連情報の周知を目的として、令和2(2020)年度は53回/年の配信を行った。

(14) 若手による小児保健検討委員会

令和2年度中に名称を「若手による小児保健検討会準備委員会」から「若手による小児保健検討委員会」に改めた。10-20年後に予測される小児保健上の課題を推測し、それらの課題に対して先進的に取り組む若手人材の育成方法を検討することをミッションとして活動している。

①令和2(2020)年10月6日に第1回委員会をオンライン開催した。令和2年の日本小児保健協会学術集会での委員会企画の予定の確認、今後の委員会活動の方向性に関する意見交換が行われた。

②令和2(2020)年11月4日、第67回日本小児保健協会学術集会において、第2回委員会をオンライン開催した。委員会のミッションを確認後、4つのテーマグループ(予防、ICT、家族支援、障害児)に分かれて意見交換を行った。グループ単位での活動を開始するとともに、第68回日本小児保健協会学術集会にて、本委員会主催のシンポジウムを開催することとなった。

③令和2(2020)11月5日、第67回日本小児保健協会学術集会において、本委員会主催若手シンポジウム「医療的ケア児の現状と課題～10年後を見据えて～」を開催した。

④令和3(2021)年の第68回日本小児保健協会学術集会において、本委員会主催シンポジウム「コロナ禍におけるICTを活用した先進的な取り組み」と「性教育の多様性～ミライはどうなっている？」の開催を提案した。

4. 日本小児医療保健協議会(四者協)

子どもの健康を守り増進することを目的として、日本小児科学会、日本小児保健協会、日本小児科医会、小児外科連絡協議会の四者が協力して取り組むべき課題について検討を行っている。四

者が協力してわが国の子どものための医療健康福祉介護保険の諸問題に対し討議し、提言を行い、その実現化を進める牽引役となるための総括的な役割を担うべく活動した。

(1) 日本小児医療保健協議会（四者協）

以下の日程で開催された。新型コロナウイルスの影響を鑑み、メール審議および WEB 会議で開催。
第 196 回：令和 2（2020）年 5 月 22 日（金）メール審議、第 197 回：令和 2（2020）年 7 月 15 日（水）以降 Web 会議、第 198 回：令和 2（2020）年 9 月 16 日（水）、第 199 回：令和 2（2020）年 11 月 18 日（水）、第 200 回：令和 3（2021）年 1 月 20 日（水）、第 201 回：令和 3（2021）年 3 月 17 日（水）

(2) 日本小児連絡協議会（四者協）合同委員会

1) 小児科と小児歯科の保健検討委員会

4 回の委員会を開催し、今期の検討テーマを「公的健診での保護者に寄り添う子育て支援」とし、次年度に向けて作業分担を行い、作業に入った。本テーマは、社会情勢と共に変化する親子関係を念頭に、公的健診の場における評価や事後のフォローについて、保護者に寄り添う視点でこれを見直し、健やかな子育てを支援すべく保健関係者に提言することを目的として、小児科、小児歯科、心理および栄養の専門家がそれぞれできること、情報を共有してほしいことなどをまとめる予定としている。4 回の委員会は令和 2（2020）年 9 月 25 日（金）、11 月 24 日（火）、令和 3（2021）年 1 月 19 日（火）、3 月 30 日（火）にそれぞれ WEB 会議で開催した。

2) 発達障害への対応委員会

令和 2（2020）年 10 月 27 日に第 1 回委員会をオンライン開催した。委員や外部講師による講演を通して、発達障害への理解を深め、課題の抽出に努めてきたこれまでの活動に加え、より多くの会員や一般の方々との情報共有に取り組む方針が確認された。委員会主催のシンポジウムを開催や、臨臨床的、制度的な具体的提言を目指すことが提案された。令和 3（2021）年 3 月 2 日にオンライン開催された第 2 回委員会では、広瀬宏之委員の講演「横須賀市における発達障害の地域支援の取り組み」を受け、診断閾値に満たないケースに対する支援の意義、非発達障害の精神症状/精神障害の対応、発達障害の発症に関係する後天的要因、次世代の人材育成（研修医の教育）などにつき、現状の課題と取り組みについて活発な意見交換がなされた。また、「多職種のための発達障害の研修会」につき、主催する教育委員会と情報交換し、今後の連携の在り方につき協議していく方針となった。

3) 「子どもと ICT、子どもたちの健やかな成長を願って」委員会

「子どもと ICT、子どもたちの健やかな成長を願って」委員会

『子どもと ICT(スマートフォン・タブレット端末など)の問題についての提言』（平成 27 年 1 月発表）を基に、スマートフォンなどの ICT 端末の過剰利用が子どもの健康に与える影響についてより広く社会へ普及・啓発に取り組むこととしており、今後のシンポジウム開催等について検討した。

4) 健康診査委員会

- ・委員会を、令和 2（2020）年 8 月 30 日（日）に Web 会議にて開催した。
- ・「乳幼児健診を中心とする小児科医のための研修会 Part V」の開催について検討した。その後のメール審議にて、講師や内容、および日本小児科学会小児科専門医制度（新専門医制度）の更新単位申請について検討した。

5) 日本小児科学会主管合同委員会

- ・栄養委員会（食育フォーラム）
- ・治療用ミルク安定供給委員会
- ・重症心身障害児（者）・在宅医療委員会
- ・健康審査委員会

6) 日本小児科医会主管合同委員会

- ・成育基本法制定推進委員会
- ・地域総合小児医療連絡協議会

7) 日本小児期外科系関連学会協議会主管合同委員会

- ・小児周産期災害医療対策委員会
- ・疾病登録と保健・医療情報の電子化に関する委員会

5. 外部団体委員会への出席

- (1) 予防接種推進専門協議会（代表者会議および全体会議）
- (2) 小児慢性疾患委員会
- (3) 健康日本 21 推進全国連絡協議会
- (4) エコチル調査企画評価委員会（環境省）

カ. その他の事業

1. 後援事業

	事業名	申請団体（申請者）
1	日本子ども虐待防止学会第 26 回学術集会いしかわ金沢大会	日本子ども虐待防止学会第 26 回学術集会いしかわ金沢大会大会長 沼田 直子
2	第 10 回日本小児科医会乳幼児学校保健研修会	公益社団法人 日本小児科医会 神川 晃
3	令和 2 年度市民公開講座—新型コロナ可における子どもの心と体のケア—	公益財団法人小児医学研究振興財団 理事長 高橋 孝雄
4	第 27 回日本保育保健学会 in ぎふ	日本保育保健協議会

2. 協会活動

(1) 協会活動助成

1) 小児保健奨励賞・研究助成

(対象論文)

令和元（2019）年 1 月～令和元（2019）年 12 月に発刊された小児保健研究第 78 巻 1 号～第 78 巻 6 号に掲載された論文を選考対象とした。

(選考方法)

5 名の選考委員により審議を重ね、2 編の推薦論文を選考し、理事会での承認を得て決定した。

(受賞者)

1. 論文執筆者：北 洋輔（きた ようすけ）氏（国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所知的・発達障害研究部／研究職）

論文名：発達性読み書き障害の早期発見に向けた行動観察項目の開発

掲載巻号：第 78 巻 3 号 p. 191～198

種類：研究

2. 論文執筆者：難波 知子（なんば ともこ）氏（川崎医療福祉大学医療技術学部健康体育学科／研究職/養護教諭）

論文名：学校健康診断前保健調査票による胸郭異常スクリーニングの現状と課題解決モデルの提案

掲載巻号：第 78 巻 5 号 p. 437～444

種類：研究

(2) 小児保健奨励賞 小児保健・愛育会賞

(選考方法)

選考委員会で慎重に審査を行い、理事会での承認を得て決定した。

(受賞者)

1. 代表：長崎大学生命医科学域保健学専攻 代表者 森藤 香奈子（もりふじ かなこ）氏

活動名：小児在宅医療ケア児の外出支援「トイレ貸して」運動

推薦：長崎県小児保健協会（会長 森内 浩幸 氏）

2. 代表：大山家族 代表者 長石 純一（ながいし じゅんいち）氏

活動名：小児糖尿病患者を愛しみ育てる多職種連携の「大山家族」活動

推薦：鳥取県小児保健協会（会長 花木 啓一 氏）

(2) 都道府県研修会小児保健振興事業

都道府県地方協会からの申請を受け、本協会において審査の上、公共事業としてふさわしいと認められた研修会事業に対し、10万円を上限として支給した。申請期間を前期と後期に分けて実施した。申請は前期・後期で合計31件（前期19件、後期12件）を受け付けたが、うち8件は新型コロナウイルス感染症の状況により中止されることとなった。中止または開催方法変更等については変更の届け出を受け付け、助成金の執行状況に応じて返金を得た。

3. 要望書

(1) 「児童生徒のための個別健診による健康診断実施の要望」の提出

令和2年4月15日付で、厚生労働大臣および文部科学大臣宛に会長名で発出した。

(2) 「緊急事態宣言下での定期予防接種の継続的实施についての要望書」の提出

令和2年5月22日付で、日本小児医療保健協議会各団体の連名により厚生労働省健康局健康課長および同子ども家庭局母子保健課長あてに提出された。

(3) 「令和2年度インフルエンザHAワクチン製造予定量増産等のお願い」への賛同

予防接種推進専門協議会による厚生労働省健康局長あて提出に賛同した。

(4) 「新型コロナウイルス感染症対策のために就学前教育・保育施設の人的・物的環境整備に関する緊急要望書」への賛同

令和2年7月15日付で、一般社団法人 全国保育園保健師看護師連絡会により厚生労働大臣宛に提出された。

4. 震災対策事業

日本小児医療保健協議会（四者協）が行う震災対策の中において、小児周産期災害医療対策委員会が中心となって東日本大震災10年市民公開フォーラム「災害と小児・周産期医療；東日本大震災後10年を振り返り、今後起きうる災害にどのように対応するか」が令和3（2021）年3月13日にWeb開催された。日本小児保健協会からも国立医療保健科学院健康危機管理研究部の奥田博子上席主任研究官にシンポジストとして参加していただいた。その中で災害後の保健に関する活動、中長期的な子どもの健康被害の予防やケアなどへの対応を行うためのマニュアルが2021年3月末に発刊予定であることが発表された。

II-2. 役員会等に関する事項

1. 常任理事会

常任理事会を5回開催し、協会の事業遂行上必要な案件を協議、決定し運営した。令和2年度にお

いては、新型コロナウイルス感染症拡大の状況下であり開催方法はWeb会議とした。また、新型コロナウイルス感染症拡大の状況下において研修事業実施していくためのオンライン研修システム導入に関する臨時常任理事会を1回開催した。

第1回：令和2（2020）年4月10日（金）

第2回：令和2（2020）年6月11日（木）

第3回：令和2（2020）年9月9日（水）

第4回：令和2（2020）年10月29日（木）

第5回：令和3（2021）年2月14日（日）

臨時常任理事会：令和3（2021）年1月16日（研修事業へのシステム導入に関する検討を行った）

2. 理事会

（1）令和2（2020）年度第1回理事会（Web会議）

令和2（2020）年4月10日（金）、理事25名中19名出席で、本理事会は成立した。定款の規定による議事録署名人として、鈴木順造監事、山縣然太郎監事、秋山千枝子会長が指名され、開催した。

（2）令和2（2020）年度第2回理事会

令和2年5月22日（金）、秋山千枝子監事の司会により開会され、理事24名中18名出席で、本理事会は成立した。定款の規定による議事録署名人として、秋山千枝子、並木由美江、両監事および小枝達也会長が指名され、開催した。

役員改選に伴う会長の選任について、会長（代表理事）に小枝達也理事が推薦され、出席理事18名全員の賛成をもって選任が可決され、小枝達也理事が直ちに就任を承諾した。本議題の可決をもって令和2年度第2回理事会は閉会された。

（3）令和2（2020）年度第3回理事会

令和2（2020）年11月14日（土）、理事24名全員出席で、本理事会は成立した。定款の規定による議事録署名人として、秋山千枝子、並木由美江、両監事および小枝達也会長が指名され、開催した。

（4）令和2（2020）年度第3回理事会

令和3（2021）年3月13日（土）、理事24名中23名出席で、本理事会は成立した。本理事会は成立した。定款の規定による議事録署名人として、秋山千枝子、並木由美江、両監事および小枝達也会長が指名され、開催された。Ⅰ. 人事・事業実施報告、Ⅱ. 開催計画、審議事項として令和3年度事業計画および予算、その他について提出がなされ、承認された。

（5）理事会の決議省略（電子メールによる見直し決議）

1) 令和2年度第1回理事会見直し決議（令和2（2020）年4月17日付全理事・全監事同意）

〈報告事項〉（1）総会開催について、（2）総会前の理事会開催予定について、（3）令和2年度改選理事候補者について

〈提案事項〉（1）予防接種・感染症委員会作成「保育所における予防接種と感染症に関するあるあるQ&A35」について、承認された。

2) 令和2年度第2回理事会見直し決議（令和2（2020）年4月27日付全理事・全監事同意）

〈提案事項〉（1）日本小児医療保健協議会 健康診査委員会作成「新型コロナウイルス感染症の拡大の中での乳幼児健診への対応について」、提言の内容について四者協構成団体としての確認がなされ、承認された。

3) 令和2年度第3回理事会見直し決議（令和2（2020）年5月18日付全理事・全監事同意）

〈提案事項〉(1)「緊急事態宣言下での定期予防接種の継続的实施についての要望書」への連名について、(2)「母子保健事業である乳幼児健康診査の緊急事態宣言下での継続的实施についての要望書」への連名について、承認された。

4) 令和2年度第4回理事会見做し決議(令和2(2020)年6月18日付全理事・全監事同意)

〈提案事項〉(1)日本小児科学会所管 四者協同委員会 重症心身障害児(者)・在宅医療委員会「小児在宅医療実技講習会マニュアル」改訂版のホームページ掲載について、(2)日本小児科学会 小児慢性疾病委員会の委員改選に伴う推薦について、承認された。

5) 令和2年度第5回理事会見做し決議(令和2(2020)年6月29日付全理事・全監事同意)

〈報告事項〉1. 税理士事務所との顧問契約について、2. 外部団体会議等への派遣委員の変更について

〈提案事項〉1. 新入会員(令和2年4月～5月)、2. 協会委員会の担当理事・副担当理事の配置について、承認された。

6) 令和2年度第6回理事会見做し決議(令和2(2020)年8月3日付全理事・全監事同意)

〈提案事項〉1. 日本小児保健協会委員会委員の改選について、2. 日本小児医療保健協議会(四者協)合同委員会(日本小児保健協会所管委員会)委員の改選について、3. 日本小児医療保健協議会(四者協)合同委員会委員の改選について、4. 予防接種推進専門協議会による要望書「令和2年度インフルエンザ HA ワクチン製造予定量増産等のお願い」提出への賛同について、5. 全国保育園保健師看護師連絡会による要望書「新型コロナウイルス感染症対策のために就学前教育・保育施設の人的・物的環境整備に関する緊急要望」提出への賛同について、承認された。

7) 令和2年度第7回理事会見做し決議(令和2(2020)年9月14日付全理事・全監事同意)

〈提案事項〉1. 日本小児科医会「子どものかかりつけ医がいなくなる?!日本の小児地域医療を崩壊から守るための緊急メッセージ」の周知・拡散の協力について、2. 日本小児科医会「子どものかかりつけ医がいなくなる?!日本の小児地域医療を崩壊から守るための緊急メッセージ」署名活動を協会として賛同することについて、複数の理事より日本小児科医会の提案文の表現が不適切ではないかとの指摘があり、不承認。3. 新入会員について(令和2年6月～令和2年8月)、4. 令和2年度改選委員に関する交代等について、3および4について、承認された。

8) 令和2年度第8回理事会見做し決議(令和2(2020)年12月17日付全理事・全監事同意)

〈提案事項〉1. 幼児健康度調査委員会による書籍「子どもの保健 1980年から10年ごとの幼児健康度調査の結果と分析 小児保健に携わるすべての人に」の印税の寄付の受領について、2. 予防接種推進専門協議会要望書への賛同について、承認された。

9) 令和2年度第9回理事会見做し決議(令和3(2021)年1月4日付全理事・全監事同意)

〈提案事項〉1. 日本小児科学会からの「虐待による乳幼児頭部外傷に対する日本小児科学会

の見解」への賛同依頼については、全理事の賛同を得るに至らず否決された。

10) 令和2年度第10回理事会見直し決議（令和3（2021）年3月3日付全理事・全監事同意）
〈提案事項〉1. 予防接種推進専門協議会によるホームページ掲載による情報発信について（日本脳炎ワクチンの件）、2. 予防接種推進専門協議会によるホームページ掲載による情報発信について、3. 予防接種推進専門協議会によるホームページ掲載による情報発信について（新型コロナウイルスワクチン接種に関する提言の件）、承認された。

3. 令和2（2020）年度監査会（Web会議）

令和2年4月10日（金）、鈴木 順造 監事、山縣 然太朗 監事により、令和元年度（令和元年4月1日から令和2年3月31日まで）の事業年度の理事の職務の執行について監査され、適正であると認められた。

4. 令和2（2020）年度定時社員総会（Web会議）

日時：令和2年5月22日（金）15:00～15:20

令和2年5月22日（金）日本小児保健協会会議室（東京都千代田区神田）において、社員総数178名のうち、出席者160名（本人出席21名、委任状出席139名）で社員の過半数以上に達したことにより総会は成立した。なお、新型コロナウイルス感染症に関する状況により、会議室での開催と同時にWeb会議での出席を勧奨した。議長は、代議員の中から平岩幹男氏が選任され、議事を進行した。議事録署名人2名については、立候補、推薦はなく、議長から鈴木順三（福島県）、山縣然太朗（山梨県）両代議員が指名され、承認が得られた。以下の議事について、承認された。

〈報告事項〉1. 令和2（2020）年度 事業計画、2. 令和2（2020）年度 予算書、3. 令和元（2019）年度 事業報告、4. その他（令和2（2020）年度 協会活動助成 小児保健奨励賞の決定について）

〈審議事項〉1. 令和2（2020）年度名誉会員の推薦について、2. 日本小児保健協会学術集会について、3. 令和元（2019）年度決算書案ならびに監査報告、4. 理事の選任、5. 監事の選任、